

鑄造科	漆工科	師範科
櫻岡同人	白山同人	白濱同人
津田同人	石井同人	波根同人
坂口同人	堀井同人	鶴田同人
大島同人	堀井同人	黒岩
櫻岡同人	白山同人	
津田同人	石井同人	
坂口同人	堀井同人	
大島同人	堀井同人	
櫻岡同人	石井同人	白濱同人
津田同人	堀井同人	波根同人
坂口同人	堀井同人	鶴田同人
大島同人	堀井同人	鶴田同人
櫻岡同人	石井同人	白濱同人
津田同人	堀井同人	波根同人
坂口同人	橋本同人	鶴田同人
大島同人	堀井同人	長原同人
石井	石井	石井
櫻岡同人	白山同人	白濱同人
津田同人	石井同人	波根同人
坂口同人	堀井同人	黒岩同人
大島同人	堀井同人	原田同人
櫻岡同人	石井同人	鶴田同人
津田同人	橋本同人	鶴田同人
坂口同人		
	(石井)ハ當日(一時間)師範科ノ授業ヲ担当ス	(鶴田)ハ當日日本画科又ハ彫刻科木、牙彫部ノ授業ヲ、(白濱)ハ教員志望者ノ學科ヲ担当ス

(自明治四十四年至大正元年 庶務雜書類 庶務掛) 表中岡田信一、岡田三三、岡田三郎助、海美、海野美盛、海勝、海野勝珉

⑤ 川端玉章辞任

「東京美術学校近事」(517頁)に記されているとおり、明治四十五年四月二日、川端玉章は病気のため辞職し、ここに後任人選の問題が生じた。正木直彦は再び竹内栖鳳(京都市立美術工芸学校教諭より明治四十二年四月創立京都市立絵画専門学校教授に転任)を勧誘すべく、四月上旬に京都へ赴いた折りに栖鳳と面談したが、栖鳳は辞退した。本学芸術資料館所蔵正木直彦宛書簡の中の栖鳳の書簡(明治四十五年

四月二十九日)はその返事を認めたもので、栖鳳はかつて招聘問題で煩わせたことのある柴田源七(438頁参照)とも相談したりして熟慮したが、前々から作家としてもっと製作に親しみたいと痛感していた上、勤務時間にも耐えられそうにないので、折角の御勧誘ではあるが辞退すると述べている。栖鳳は明治二十四年の岡倉覚三の勧誘と同四十一年および今回の正木直彦の勧誘と三度本校からの勧誘を断った。そのために、玉章の後任は福井江亭がつとめる形となった

が、力不足であったため、正木はのちに結城素明を教授に昇格させ（大正三年）、新たに川合玉堂を起用し（同四年）、江亭を日本画科以外の日本画指導にあたらせるなどの措置をとった。

⑥ 菱田春草遺墨展覧会

明治四十五年四月、本校で菱田春草遺墨展覧会が開かれ、注目を集めた。明治三十一年に岡倉覚三の後を追って本校を去った春草は、日本美術院で横山大観とともに日本画革新の先頭に立ち、朦朧体と非難されながらも研鑽を重ね、やがてそれを脱却して第一回文展における「賢首菩薩」、第三回文展における「落葉」、第四回文展における「黒き猫」と苦闘の成果を示し、文展審査委員ともなったが、四十四年九月十六日に病死した。実に惜しむべき死であった。葬儀は十八日に青山斎場で行われ、岡倉覚三、横山大観、下村観山をはじめとする二百余名が参列。遺骸は郷里の信州飯田に葬られた。

『東京美術学校校友会月報』の編集部は、同誌第四卷第五号に大観、春草の「絵画に就いて」を、第八卷第七号に春草の「画界漫言」を、また、第九卷第一号に同者の「古画の研究」を全文掲載するなど、春草の動向に対して関心を示していたが、その死去に際しては第十卷第二号に追悼記事を掲げ、併せて『東京日日新聞』に載った尾竹竹坡と横山大観の追悼談話および『東京朝日新聞』に載った岡倉覚三の談話を転載し、さらに第十卷第四号には「なにはばら」なる人の追悼文を掲載している。春草の死は人々に大きな衝撃を与えたい。

春草遺墨展覧会は春草歿後直ちに関係者たちによって計画され、

準備期間が短かったにも拘らず文展出品作を含む三百余点が集まり、充実した展覧会となった。その経緯は校友会月報に次のように記されている（展覧会の概況については53頁「東京美術学校近事」を参照されたい）。

○春草畫伯追弔展覧會の計畫

嚮に物故せられたる菱田春草氏の爲め、其知己たりし岡倉覺三、寺崎廣業、横山大観、下村観山、川合玉堂、木村武山、秋元酒汀、井口長藏、笹川種郎（號臨風）、齋藤隆三等諸氏の發起にて、明年四月二日より同六日迄五日間、東京美術學校内に於て追弔展覧會を催ふし、春草氏の遺墨を蒐集展観すると同時に、廣業、大観、玉堂、観山、武山、其他十畫家の新作品をも陳列して希望者に賣約し、其代金は悉く遺児の教育資金に宛つる筈なるが、岡倉、秋元、井口三氏は、其材料として、各金屏風一雙づゝを寄附することを約せし由。尚ほ春草氏の遺墨は、同展覧會に出陳すると共に、之を撮影して遺墨集を發行する事となりたるに付、發起人は此際遺墨所藏の人々に向ひ、成るべく其の祕藏品の出陳を乞ひ、該畫集をして完璧たらしめんことを希望し居る由。因に同會に關する事務は、一切下谷區茅町二の一、横山大観氏方（電話下谷五〇八二）にて取扱ふといふ。

（『東京美術学校校友会月報』第十卷第二号）

○春草氏遺墨展覧會 第三回文部省美術展覧會に「落葉」を出してより畫界を風靡し、其第四回より審査員に擧げられたる本校出身の故菱田春草畫伯が、宿痾の腎臟病の爲め昨秋天折せる事は當